

「赤ワインの丘プロジェクト ワイナリー誘致に係る基本協定書」 調印式が開催されました。

本坊酒造株式会社(本社:鹿児島市、社長:本坊和人)は、9月2日(水)に山梨県韮崎市役所において、韮崎市(内藤久夫市長)が進める「赤ワインの丘プロジェクト」の中核となる、ワイナリー施設整備について「赤ワインの丘プロジェクトワイナリー誘致に係る基本協定書」調印式を行いました。

この協定は、韮崎市と本坊酒造が連携協力し、赤ワインの丘プロジェクトの理念である「高品質な醸造用ぶどうの産地である穂坂地区のブランド化を推進し、ワイナリーを核とした複合的な観光拠点づくり」を目指すとともに、新たな観光資源の創造・活用による韮崎市の活性化に寄与することを目的に定めています。この協定の締結によって、より一層の事業進捗が図られるものと期待されます。

この度、本坊酒造が、「赤ワインの丘プロジェクト」の中核となるワイナリーとしての参画立地することになりました。高品質な醸造用ぶどうの一大産地であり、自社農園「穂坂日之城農場」を所有し、長年にわたり関わりのある穂坂地区に、醸造拠点としてワイナリー施設を構えることで、さらなる品質向上をはかり、あわせて地域の発展に貢献すべく取り組んでまいります。現在、事業規模、施設概要、詳細について検討中です。計画どおりに進めば、平成28年に醸造施設の建築を開始、平成29年からワイン醸造を開始する予定です。



左から
韮崎市 水川秋人 副市長
韮崎市 内藤久夫 市長
弊社 代表取締役社長 本坊和人
弊社 取締役甲信事業部長 久内一

＜赤ワインの丘プロジェクトについて＞

「赤ワインの丘プロジェクト」は、経済産業省中小企業庁の補助事業「小規模事業者地域力活用新事業全国展開支援事業」の採択プロジェクトとして韮崎市商工会を事務局としてスタートしました。ぶどう栽培が盛んな韮崎市穂坂町は、日照時間、気温の寒暖差、赤土を適度に含んだ土壌などから、赤ワイン用品種に最適な地域ですが、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加が課題となっています。「赤ワインの丘プロジェクト」では、地域内に醸造所(ワイナリー)を中心とした複合型観光施設を設置し、地域活性化を図ります。「高品質な醸造用ぶどうの産地である穂坂地区のブランド化を推進し、ワイナリーを核とした複合的な観光拠点づくり」を目指すことで、醸造用ぶどうの需要が増え、それがぶどう生産者を増やすことに繋がり、耕作放棄地もワイン用のぶどう畑として活用されていくことで、好循環を生むことが期待されています。

【本件に関するお問い合わせ先】

本坊酒造株式会社 経営企画本部 鹿児島市南栄3丁目27番地
(〒891-0122) TEL099-822-7003 FAX 099-210-1215